

# 令和5年度第1回京都市市民活動総合センター運営委員会 議事摘録

日時：令和5年6月26日（月）19：00～21：00

場所：京都市市民活動総合センター

ミーティングルーム1・2

出席委員：大石尚子、尾崎園子、河野有里子、小林明音、小林寛、阪本純子、杉本星子、鈴木千鶴、鈴木康久、竹田明子、西野桂子、日下田貴政、藤本香、森野茂、吉田忠彦（以上、15名中15名の出席） \*敬称略 五十音順

事務局：平尾、内田、土坂、真鍋

(1) 主催挨拶

(2) 委員・事務局自己紹介

(3) 委員長・副委員長選任

運営委員会および新規委員選任について事務局から説明を行った後、事務局から委員長として吉田委員の指名があり、了承された。また、委員長から副委員長に杉本委員を指名し、了承された。

(4) 委員長挨拶

(5) 議案

## I. 令和4年度事業報告および予算執行状況について

事務局より資料に基づき、令和4年度事業および予算執行状況の報告があった。概要は以下の通り。

### 【情報収集・提供】

- ・機関紙「hotpot」は半期に1度発行を予定していたが遅れてしまったため、令和5年3月に2号同時に発行した。公共施設だけでなく飲食店などにも設置をしているが、各号のテーマに沿った店舗（例えば76号であれば鉄道関連施設など）等への設置も都度開拓している。
- ・NPO スポットライトは月に1度、職員が市民活動団体取材した記事を発信する事業である。記事をきっかけに他メディアに取り上げられるなどの効果が見られる。

### 【相談・育成事業】

相談事業はしみセンの基幹業務であり、年間1,000件程度のご相談を受けている。

- ・令和4年度は年度別に見ると人数ベースでは変化がなかったが、相談の傾向として1つの相談の中で複数の相談に対応する状況が減ったため、相談件数が減少した。利用者アンケート

ートでは、相談対応満足度について非常に高い評価をいただいている。

- ・相談対応を行うにはトレーニングが必要であり、若手職員 2 名の能力開発を行った結果、令和 3 年度から令和 4 年度において、相談件数が 3 倍程度伸びている。
- ・講座のラインナップは 23 タイトル 53 回の講座を実施。オンラインやアーカイブの講座も増やしている。
- ・市民公開講座を 4 回実施。今までしみセンでは扱ったことがないテーマを設定したことにより、2 月実施の公開講座では 30～40 代の参加者が中心となった。参加費無料だが、参加者に寄付を募っている。寄付先は後述の市縁堂参加団体に配分して渡している。

### 【連携・交流事業】

- ・市民活動団体が行っている活動や、取り組んでいる社会課題への理解・応援を促進するための市縁堂を実施している。一昨年までは 1 日イベントのスタイルだったが、令和 4 年度は団体の伴走支援を強化するスタイルへと転換を図った。4 団体がエントリーし、それぞれの運営課題について参加者からアドバイスや情報提供をしてもらった。
- ・市民活動総合センターの運営にあたり、いきいき市民活動センター（以下、いきセン）や分野別センターとの連携を進めている。令和 4 年度はこれまでの関係性づくりの下地の元、5 つのいきセンと連携事業を行うことができた。
- ・資金的課題を抱える団体が増えたことを背景に、分野別センター合同職員研修会を実施した。7 つのセンターを含む計 34 名の参加があった。
- ・コロナ禍におけるボランティア活動やその受入に関するアンケート調査を行った。コロナ禍を経てボランティアの受入れの状況や活動スタイル、ボランティア募集状況を尋ねた。75%の団体で中断した事業があったが、オンライン等を活用して新たな事業を展開した団体が 3 割程度あった。コロナ禍でのボランティア受入れの工夫として、3 割が「ボランティアのモチベーション維持するためのコミュニケーションのあり方」と回答した。募集の悩みとして、「ボランティア個人の資質」を挙げた団体が多くあり、ボランティアをしたい方と受け入れる団体との間にギャップが生じる可能性がある。

### 【しみセンアンケート】

- ・しみセンの利用者に対して、年に一度のアンケート調査を実施した。2021 年度から質問項目を変更しており、大きな変化としては自由記述欄の追加である。
- ・回答数 92 件のほとんどが来館者の回答であり、WEB での情報発信や電話相談よりも、しみセンの施設利用を行っている方々のご意見が多い傾向にある。

### 【昨年度事業統計を通して】

- ・大きな傾向として、しみセンの来館者数が減少している。どのようにこの減少を考えていくかは継続的な課題として捉えている。

### 【予算施行状況について】

- ・光熱水費が大きな金額となっている。開館時間が短縮したことによる光熱水費の変更契約を京都市と行ったが、エネルギー高騰により予算を大幅に上回る結果となった。金額は2021年度と同水準だが、しみセン単体での使用量は2万 kWh 減少している。
- ・全体として3万円ほどの赤字となっているが、赤字分は指定管理者が負担している。

### <質疑応答>

- 委員：NPO スポットライトの年間ページビュー数において、6月に取り上げた「場面緘黙の子どもを持つ親たちの試行錯誤」の桁が違っているが、どうしてなのか。
- 事務局：Google 検索ワード上位の中に「場面緘黙」があり、「場面緘黙」の疑いがある子どもの親が検索したときにヒットしたのではないかと考えている。
- 委員：相談件数の減少はあったが、相談者数は減っていないということをもっとアピールできると良かった。
- 委員：事業報告書がこれまでよりもきれいに仕上がっている。ボランティアアンケートも全国的に珍しいと思う。また、利用者アンケートの回答者が利用者全体を代表しているかは分からないが、利用者の多くは60歳以上の方で、午前・午後にミーティングルームを利用していることになっている。この固定層がよりしみセン活用するためのアプローチを考えることもありえる。しかし、しみセンは全国のNPOセンターをリードする役割もある。そうした先駆的な活動も重視し続けてほしい。
- 事務局：夜のミーティングでの活用件数がコロナ禍にかなり減っている。夜間のミーティングルームの予約利用条件を緩和することで、利用促進を図っている。
- 委員長：オンラインの活用が進む中で、会議を行う場所が不要となることも増えてきた。また中高年層の利用が多い中、逆に若者の利用を増やしていくこともアプローチのひとつかもしれない。
- 委員：利用者アンケートは、答えてくださった方の傾向が出ている。
- 委員長：光熱水費が上がっていることが気になった。他の施設も含め、京都市としてはどのように考えているのか？
- 委員：どの施設も光熱水費が上がっているが、経営の工夫で対応していただいている。
- 委員長：いきセンではどうか。
- 委員：13センターの内、当センターは住宅レベルの建物のため、それほど大きな負担にはならなかったが、規模の大きい施設はしんどいのではないだろうか。
- 委員長：通信運搬費も予算に対して大きなマイナスになっているがどんなことがあったのか。
- 事務局：ITアドバイザーにインターネット環境の保守整備をすべてお願いしているが、昨今WEB上の攻撃も多くなり、脆弱性を補うなどの業務量が増えたことにより、第3四半期から契約金額を見直した。
- 委員：ボランティアアンケートを興味深く見せていただいた。発信の予定はないのか。
- 事務局：できたばかりなので、発信はこれからだが、概要版のようなものの公開を予定している。

委員：コロナ禍ではボランティアをしたいという問合せがとても増えた。実際にはつながらなかったことも多かったが、「人の役に立ちたい」と思う人が増えたことをどのように捉えるか、振り返る素材にもなる。

事務局：しみセンにおいてもボランティアをしたいという方からの相談が増えたが、ボランティアを受け入れる団体側の課題がありつながることが少なかった。アンケート調査では希望者と受入れ側のニーズの不一致が見られ、団体側も受け入れる力を高めていく必要があるのではないかと思う。

委員：しみセン開館 20 周年という区切り。仕組みが出来たことによりたくさん NPO が育ったが、団体の運営の質が上がると新しく参加する人にも同様の質を求めがちになる。新しい人にとっては負担も多く、引き継ぐよりも新たな活動をスタートさせることを選ぶこともある。活動理念の維持と新しい活動の育成と両方をみななければならないジレンマがある。地域活動でも同じことが起こっている。

委員長：ボランティアや NPO においては誰でも新しい団体を起ち上げられるというメリットが、団体の継続や規模拡大においてジレンマとなる。事業継承より新団体の立上げが増えると、スキルが引き継がれず泡沫的な活動が多くなる。

委員：相談対応職員の能力開発の中で若手職員育成の報告があったが、育成の様子を教えてほしい。

事務局：ケース共有は、NPO 法人実務に関することでしみセン職員が全員知っておくべき水準のものについて行っており、その他は OJT で対応している。一問一答形式で回答しがちな実務相談であっても法人の状況によって答えが異なる場合も多く、相談の背景を推し量ることを学んでもらっている。

さらに、相談者のあるべき姿という視点でも相談対応を行っている。

委員：機関紙「hotpot」のテーマ設定はどうしているのか。NPO 設立講座の参加者数が出ているが、その中で設立した法人がどれぐらいあるか、分かれば教えてほしい。また、通信運搬費の中で IT アドバイザーの方に支払っている額はどう設定されているか。

事務局：「hotpot」のテーマ設定は担当職員が案を持ち寄りチームとして決めている。設立講座と法人設立の因果関係は測っていないが、相談と法人設立については一定の検証を行い報告書（ページ 8）に記載している。IT アドバイザーの契約金額設定について、業務量と一般的な見積もりから交渉をした。

委員：情報収集や提供の面で、ホームページアクセス数が減っていることが気になる。一方でポータルサイトは閲覧数が増加しており、SNS も活用している。総合して情報提供をどのように進めているのか？

事務局：しみセンを含めてひと・まち交流館に入っている 4 つのセンターが共同で使っているホームページのシステムでは、機能上の制限があるために、発信したい情報が上手く掲載できない事情がある。そのため、情報共有ポータルサイトを併用している。ホームページに掲載する情報を簡素化し、ポータルサイトを充実させているため、ホームページアクセス数が減っていることは自然な流れと捉えている。

フェイスブックはある時期から拡散数が伸び悩むようになった。対策として、昨年度よ

りリンク記事以外の投稿を増やしている。

委員：ボランティア受入に関するアンケートは興味深い。コロナ禍を経て在宅勤務も増えていることから、今後アンケートを実施するのであれば、プロボノについての質問項目も設け、いろいろな事例を集めて欲しい。

### Ⅲ. その他（報告事項）

事務局より

- ・令和5年度事業計画および予算について、資料をもとに説明があった。

委員からの話題提供

- ・京都産業大学を会場に、NPO学会を実施し、300名の参加があった。京都産業大学は2つの方向に進んでいる。5.0時代（仮想社会）を大学にどう組み込んでいくかという方向と、アントレプレナー教育のためのセンターづくりの方向の2つに舵を切っている。
- ・大学の第3のミッションとして人口減という課題へのアプローチがあるが、学生が地域に出て課題解決を行うことをいろんな学部で行っている。アントレプレナーシップやキャリア教育に力を入れている。

以上